

元治二年一月三日より元治二年一月九日まで

P8311213 right

保三秀八□年賀に來り、右兩人小品持參酒飯を設(ま)く、笠原(常)折手本鞠手遊び松盛齋菓子折先染布持參年賀に來る、酒肴を設く

四日子 細雨午時より薄晴

藤山年賀に來る、出 殿、退出より水野(甲へ)年賀による、内山、桑野へ扇壱対、須崎へ懷中志る(※1)

足袋一を持って太郎を年賀に遣す、医道亥年賀に來りし旨

五日丑 薄陰

宅調、月番箱を田村へ回達す、山本(次郎)年賀に來り、海苔を贈らる、保三來り一泊、金八來り

春興(しゅんきょう※2)を催す

六日寅 濃陰

宅調、荒井(定)來り、面し志願筋申聞る、保三雨傘借用に來る帰途返傘に來る、越前

P8311213 left

敦賀表出陣先関口左近より雁書届き交替云々の義申來る、正覚年賀に來り小品持參福茶を煎じ蕎麩を設け七種(ななくさ)の囃しあり

七日卯 雨夕前止

宅調、若菜の粥を炊く、

八日辰 雨断続

木城(五)來り、倅志願筋申聞る、出 殿、関口左近より雁書の趣演述す、牛姑年賀として來り、鶏

卵□太郎□鉦児へ□物等歛藏へ白粉緋絞り切地外に白粉半衿地、婢共へ手拭等贈られし旨、金港行方党より年賀状届く、郭分に付蕎麩を設け福茶を煎じ追善の儀あり

九日巳 雪乍雨

出 殿、昨夕伊豆守殿、本日出雲守殿、東下御着、伊豆守殿は御不快にて御登城無し
出雲守殿は

*1:携帯インスタント汁粉

*2:春興(しゅんきょう)、新年の俳句の催し

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。